

○ 現在社会は子どもにとって幸せか？

- ・子どもはしんどい思いをしている。物がありすぎ、あふれすぎで、自分で選択することができなくなっている。
- ・情報社会のひずみ（スマホ・PC・タブレットがあれば何でもできる）がある。
- ・本来の遊びができていない。

○ 子どもの行動の見方

- ・昔は、親は字のごとく（木の上に立って見る）、子どもたちに経験させるために必要なことは見守っていた。しかし、子どもは現在、スイッチON（ゲームやテレビ）だけで、相手が自分の思いのまま動いてくれるという環境の中で育っている。だから、「～された」「～してくれへん」と言うことに敏感になっている。

人を傷つけることには鈍感で、自分が傷つくことには敏感

- ・自分の思っていることを相手に伝えるのが苦手である。練習しないまま体験せずに来ている。

○ 子どものころの発達は今も昔も

知性	思春期	第二反抗期（同じ趣味、関心を持つ親友）	反抗しつつ大人へ	「心を離さない」
自立	児童期	子どもの集団の中で「妥協」までも学ぶ、大人の介入なしで		「目を離さない」
社会性・適応性	幼児期	第一反抗期	自分の意思、自我の目覚め「いや！」	「手を離さない」
情緒（喜怒哀楽）	乳幼児期	泣いて攻撃（よしよし）	安心・愛着形成	「肌を離さない」

乳幼児期から児童期は見せることが大切！モデルが親・先生・大人

☆悪循環予防方法

1 良い結果・ラッキー体験 ⇒ 行動 ⇒ その行動は増える

- ・ダダをこねことで、何かものを買ってくれる体験があると、子どもはその手を使う。

2 悪い結果・しまった経験 ⇒ 行動 ⇒ その行動は減る

- ・約束を破る、暴力をふるう、物を壊す等の行為については、きっちりと責任をとらす。

☆肯定的な表現を使う・誉める！⇒子どもの自尊感情を高める

- ・だめだめ攻撃は絶対にダメ！
- ・頑張ったことをほめるのではなく、普通をほめる。頑張ったね！は「NG」
- ・ほめ方は、具体的に自分の伝えたいことを言う。

あいまいな表現は子どもには理解できない、具体的に話しましょう！

- <例>
- ・お風呂を洗ってくれて、お母さん本当に助かったわ。ありがとう。
 - ・漢字テストよかったね。昨日勉強したかいがあったね。なかなかやるじゃない。

☆良いことと悪いこと（毅然とぶれないで）

怒鳴るや叩くはダメ、親への恐れや恐怖感を育ててしまう

○ダメなことはダメと伝える。[一人(父)が叱ったら、もう一人は(母)フォロー役]

<親子関係にダメージなしの方法>

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 特権を取り去る方法 | ○○分使わせない |
| 2 もう一度させる方法 | 「貸して」と言わせる |
| 3 責任を取らせる方法 | ○○に謝る、掃除をさせる等 |
| 4 ほめる | 具体的に |

○ 使わないでほしい、この言葉（分かりやすいコミュニケーション）

- ・「さっさとしなさい」「ちゃんとしなさい」「なにいらんことやってんの」「しっかりしなさい」「なにやってんの、あほやな」
- ・「勝手にしなさい」→勝手にしたらまた怒る
- ・「怒れへんからはなしてみ！」→やっぱり叱る

○ 躰は子どもをコントロールするものではなく、子どもの力を引き出すこと、教えて練習する

※子どもは生きるための説明書を持って生まれてこない。だから、教えて練習する。

- ・子どもがやろうとしなければ、子どもの心にとどかなければ、意味がない。
- ・「躰しているのに、言っているのに」、のにがつくとただの愚痴になる

○ 親・大人・教師がしてはいけないNo.1は、「嘘をつく」「ごまかす」こと

できない約束はしないで

○ 子どもと感情で勝負はしない

感情で怒る＝大きな声で怒鳴る＝自分の頭蓋骨に響く＝よけいに腹が立ってくる

○ 安定・集中・積極的・チャレンジャーになってほしいと思ったら

心のこもった食事・質のいい睡眠・安全安心・居場所がある・大人との信頼関係
※快食・快便・快眠は大人（親）の責任